

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 110人

② 数学 110人

#### 5 留意事項

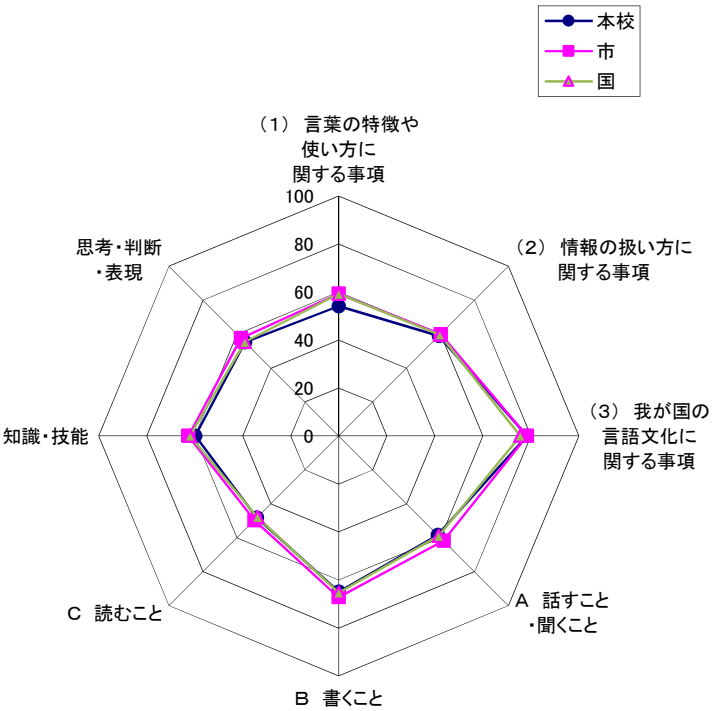
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                 | 本年度  |      |      |
|-----|--------------------|------|------|------|
|     |                    | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使いに関する事項 | 54.1 | 59.3 | 59.2 |
|     | (2) 情報の扱いに関する事項    | 59.0 | 60.0 | 59.6 |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 78.4 | 78.4 | 75.6 |
|     | A 話すこと・聞くこと        | 58.3 | 61.8 | 58.8 |
|     | B 書くこと             | 64.9 | 67.2 | 65.3 |
|     | C 読むこと             | 48.2 | 49.7 | 47.9 |
| 観点  | 知識・技能              | 59.8 | 62.7 | 62.0 |
|     | 思考・判断・表現           | 55.3 | 57.6 | 55.4 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度      |      |      |      |



★指導の工夫と改善

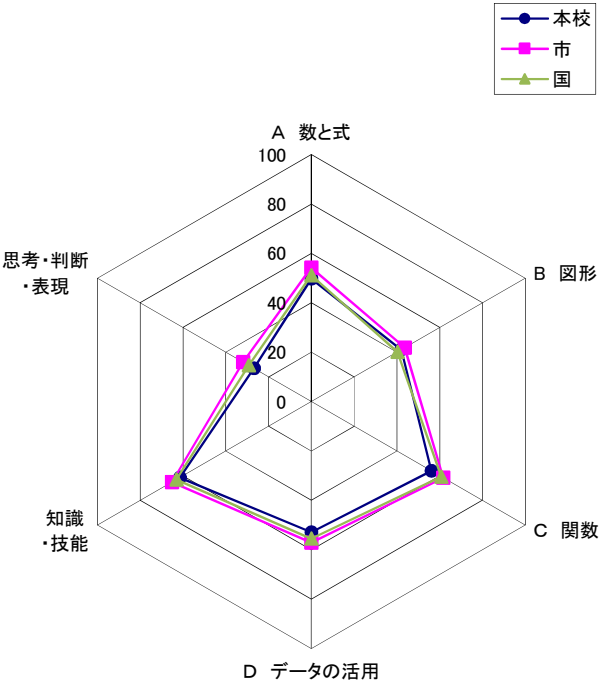
| 分類・区分                  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                                                                                     |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や<br>使いに関する事項 | ●市、国と比較して5.2ポイント下回っている。「みちたりた」を漢字で書く問題や副詞の役割、韻文の表現技法について誤答または無解答とした生徒の割合が多かった。生徒質問紙の「新聞を読んでいますか」の問いに対しては「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒が9割強であることも背景として考えられる。                                    | ○語彙の少なさ、漢字を書くことへの抵抗は日頃から見られるので、現在取り組んでいる朝の読書、毎時間の漢字テストを積極的・継続的に実施する。<br>●文法や韻文の表現技法については、他単元の教材や日常生活の会話の中でも触れたり、作文や意見発表の中に取り入れさせるなど工夫を凝らした授業を実施する。           |
| (2) 情報の扱い方に関する事項       | ●市、国と比較して0.6～1.0ポイント下回っている。選択肢の言葉が類似していて相違部分が見分けられなかったことが誤答の理由として挙げられる。                                                                                                                      | ○言葉が類似する選択肢の見分け方や、キーワードを見つける学習などを取り入れた授業を実施する。                                                                                                               |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項     | ○国と比較して2.8ポイント上回っている。実際の設問の「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」について、無回答であった生徒の割合が0.1%にも満たなかった。                                                                                             | ○昨年の「とちぎっ子学習状況調査」の結果を踏まえ半年間授業改善を行った。まずは古典への苦手意識をなくすために、映像資料や学習漫画なども取り入れた授業展開を実践したり、古文の音読を推奨することで、耳で聞いて音を覚え、目で追う文字との違いをより意識させた。今後も古典作品を身近に感じられる授業展開の工夫を実施する。  |
| A 話すこと・聞くこと            | ●市、国と比較して0.5～3.5ポイント下回っている。誤答の詳細について分析すると、図に○を書き込む解答の場合はその答え方が分からないと思われるものや、自分の意見を会話文として書くという他領域との関連性がうかがえる設問もあり、本校生徒が苦手とする内容だったことが分かった。                                                     | ○正確に聞き取る力の育成を図るために定期的に実施している聞き取りテストを今後も継続する。<br>●「話すこと」については、伝える相手と場面、目的や条件など複雑な設定に応じた会話文、手紙などを披露する授業を設ける。日常生活での会話や面接の練習などを通して正しいコミュニケーションを図るよう指導する。         |
| B 書くこと                 | ●市、国と比較して0.4～2.3ポイント下回っている。特に普段なかなか授業では取り上げない「物語の終末の創作」という設問に戸惑い、誤答または無回答とする生徒が多かったことが一因と考えられる。                                                                                              | ○まとまりのある文章を書くことを厭う生徒が見受けられるので、まずは書くことへの抵抗を減らすよう簡単な課題から取り組ませる。<br>●「話すこと」同様、場面設定や目的に応じた文章を書く機会を、他教科や進路指導と絡めて実施する。                                             |
| C 読むこと                 | ○国と比較して0.3ポイント上回っている。生徒質問紙の「国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈しているか」の問いに対しては「とても当てはまる」「まあ当てはまる」と回答した生徒が8割強と県よりも高い。設問の「説明文に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉をそれぞれ選択する」については全国の平均より7.9ポイント高かった。 | ○昨年の「とちぎっ子学習状況調査」の結果を踏まえ半年間授業改善を行った。具体的には読み取りやワーク類の演習において、ただ漫然と文章を目で追ひ、答えを覚えるのではなく、「なぜそういう答えなのか」「どのような手順で答えを論理的に導くのか」ということを明確に意識させた。今後も指導を継続し、さらに論理的思考力を高める。 |

宇都宮市立国本中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と式         | 49.7 | 54.2 | 51.1 |
|    | B 図形          | 42.0 | 43.6 | 40.3 |
|    | C 関数          | 56.1 | 61.7 | 60.7 |
|    | D データの活用      | 52.9 | 57.1 | 55.5 |
| 観点 | 知識・技能         | 61.5 | 65.2 | 63.1 |
|    | 思考・判断・表現      | 26.8 | 31.9 | 29.3 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                   | 今後の指導の重点                                                                                                                        |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と式    | 平均正答率は、市・国の平均を下回っている。<br>○正負の数の計算の問題では、市・国の正答率を上回った。数の四則演算は理解できている生徒が多いと考えられる。<br>●目的に応じて式を変形する問題では市の正答率より5ポイントほど下回っている。問題文から、何について解くのかを読み取ることを苦手としている生徒が多い。                                             | ・簡単な式変形など、既習事項の確認をする時間を多く取り入れていく。<br>・新たに学習する内容に関しては、繰り返し問題練習を行う中で、基本的な問題の解き方を身に付けられるよう心掛けることで、難易度の高い問題を解決する糸口になるようにする。         |
| B 図形     | 平均正答率は、市の平均を下回っている。<br>○図形の回転移動について考える問題では、市・国の正答率を7ポイント上回った。図形問題の演習を繰り返し行ったことで、知識・技能の定着につながり、正答率が高くなったと考えられる。<br>●証明の問題では、市・国の正答率を7ポイントほど下回っている。証明を書くことが難しいと感じている生徒が多い。                                 | ・授業の中で既習事項を確認する時間を設けて、様々な図形の性質や条件などを繰り返し復習し、定着させる。<br>・文章の中の必要な情報に下線を引かせるなど、文章の意味を読み取る力をつけさせる指導を心掛ける。                           |
| C 関数     | 平均正答率は、市・国の平均を下回っている。<br>○グラフからの値を読み取る問題では、他の問題に比べて市・国の正答率と同程度であった。グラフの傾きや交点の意味を理解できている生徒が多いと考えられる。<br>●グラフからわかることを読み取り説明する問題では市や国の正答率より6ポイントほど下回っている。与えられた表やグラフから適切な情報の読み取りが苦手で、それを説明をすることができていない生徒が多い。 | ・関数の式の形、変化の割合の求め方など、グラフや表から情報を読み取り、それを活用して答えを求める問題に多く取り組ませる。<br>・文章の内容から、1次関数の性質を読み取り、式の形で表せるように、文章からキーワードや必要な数量を見つけさせる指導を心掛ける。 |
| D データの活用 | 平均正答率は、市・国の平均を下回っている。<br>○確率を求める問題では、市の正答率を2ポイント上回った。確率の求め方を理解できている生徒が多いと考えられる。<br>●与えられたデータから最頻値を求める問題は、市や国の正答率より7ポイント下回っている。データの活用ででてくる言葉を忘れてしまっている生徒が多いと考えられる。                                        | ・平均値、中央値、最頻値や、相対度数の求め方などを復習する時間を設ける。<br>・箱ひげ図の有用性を理解させること。箱ひげ図で用いる四分位数などの言葉を確認すること。題解決学習を行い、箱ひげ図の使い方を復習する。                      |

宇都宮市立国本中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問(10)の「先生は、あなたの良いところを認めてくれますか」との問いに本校では「当てはまる」が68.2%(同県52.5%、同市44.2%)、「どちらかといえば当てはまる」が28.2%(同県41.1%、同市46.2%)、また「当てはまらない」が0%(同県1.5%、同市2.3%)という結果がでた。特に注目すべきは「当てはまらない」が0%という数値を示している点にある。この結果から生徒と教師の関係性は極めて良好であるといえ、質問(14)の「・・・先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」との設問についても良好な結果を得られた。また質問36の「先生は・・・わかるまで教えてくれていると思いますか」には94.6%肯定的に答えていた。

それらによって生徒の自己肯定感(質問9)が高まり、自分の将来に希望や目標がもて(質問11)、公共心公德心(質問12、13)の涵養に繋がったと考える。

●生徒の約35%が携帯を用いたゲーム、SNS、動画の視聴に3時間以上の時間を費やしていた。この数値は県より8ポイント高く、全国と比べても2.9ポイント高かった。またテレビゲームの依存も県全国に比べて高かった。時間の管理ができない生徒が多いと考えられ、その結果が1日当たりの学習時間2時間以上の生徒が23.7%と県、全国とも8ポイント低い結果として出た。3年としてこの結果を踏まえ時間の使い方を指導していく。

宇都宮市立国本中学校（第3学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                        | 取組の具体的な内容                                                                                                                                               | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・授業改善を通じた授業力の向上               | 生徒にとって「分かる授業」を展開するために、宇都宮モデルに基づき、めあての明示やペアワーク、グループワークなどの学習形態の工夫、授業の終末での学習内容の振り返りを全教科で実践している。                                                            | 各教科の「授業の内容はよく分かりますか」の質問の肯定的回答の割合は、国語83.7、数学75.4ポイントで県や全国の平均と同程度であった。質問番号(36)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の肯定的回答は94.6ポイントと非常に高く、特に「当てはまる」では56.4ポイントと、県、全国を大きく上回っている。                   |
| ・生徒の学びの自己調整能力の育成              | 定期テスト前の2週間、「家庭学習がんばりの記録」を利用し、家庭学習の時間を記入されることで、生徒自身の学習への取組状況を可視化し、個に応じて指導助言を行っている。<br>各教科の学習を振り返り、理解できた点や、よく分からなかった点を整理し、次の学習につなげられるよう、各教科振り返りシート等を活用する。 | 質問番号(34)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、肯定的回答は79.1ポイントで、県(80.1)と、全国(77.9)と同程度であったが、質問番号(35)「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」では、肯定的回答が87.3ポイントと、県(82.5)と、全国(79.0)を上回った。 |
| ・家庭学習における学習内容の復習の習慣化に向けた指導の工夫 | 全学年で家庭学習の習慣化に向けた取組を行っている。また、復習するポイントを生徒が整理しやすいよう、各授業で、その日の学習内容の振り返りを行っている。                                                                              | 質問番号(21)(22)から、本校生徒が一日に勉強する時間は、県の平均と比較して短めであると言える。「3時間以上」と回答した割合は県、全国いずれも下回った。「全くしない」と回答した割合は土日で11.8ポイント、平日で4.5ポイントと、県、全国の平均と同程度であり、本校の前年度の値から大幅に減少している状況であることから、家庭学習への取組の習慣化については徐々に定着してきたと考えられる。               |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                                                                                                                             | 重点的な取組                                            | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 質問番号(27)「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」では、県、全国の平均と比較して、週3回以上と回答した割合が大きく下回っている。また、質問番号(28)の結果から、本校生徒のICT機器を活用する有用性についての認識は、県、全国の平均と同程度であることから、教職員が日々の授業の中で効果的にクロームブックを活用していくことが課題であると言える。 | ・思考力・判断力・表現力を育成する教科指導の充実<br>(生徒の学びの自己調整能力の育成を通して) | 各教科の単元計画の中で、自分の考えや意見を文章、表、スライドにまとめて表現させたり、それらを他者と比較検討させたり、また、AIドリルに取り組みさせて自分のペースで学習を進めさせたりと、ICTを効果的に活用できる場面を設定していく。また、授業の終末では、学習内容を振り返らせ、学んだことを自分の言葉で説明させたり、次の学習への取り組み方を考えさせたりする時間を設定し、自らの理解度を確認させる指導を通して自己調整能力の育成を目指す。 |